財っ子通信 第３号　　文責　校長：三樹和幸

やりたいこと　できることが増え
やらなければならないことが 確実に定着し みんなが伸びる学校

財光寺小学校
電話：５４－２８２５
校長 Email:
zaikoji-k@hyugacity.jp

６月は、さすがに雨が多く、朝の靴箱は、長靴がなかなか脱げない子や傘を閉じて紐で留める子、カッパをたたむ子などで大混雑です。子供たちの荷物の中には「水泳セット」もあり、そんな子たちに「今日は、水泳なの？」と声をかけると、「はい、でも雨だから、今日は、ないかも知れません」と心配顔の子も多く見られます。早く梅雨が明けるといいですね。
運動場にも出ることができない中、私が一番薦めたいのは、読書です。

いろんな世界に入っていける読書

子供たちが最近手にしているゲーム機でも、冒険はできるかも知れませんが、所詮その映像は第三者が作ったものです。読書であれば、本の中の情景を自分で広げて楽しむことができます。自分の少年期を思い出すと、私は本の中でも冒険をしていました。
「十五少年漂流記」、「ロビンソンクルーソー」、「宝島」、「海底二万哩」、「シンドバットの冒険」。自分の生活とは大きく離れた外国であったり、時代であったりしますが、少年の想像力は、大きくかき立てられ、ページをめくる毎に広がる新たな世界にドキドキしたものでした。最近のテレビは、CM ばかりで、CM で視聴者がチャンネルを替えないように、解答や大きな展開場面を予告し、それを CM 後にもってきています。番組を見ているのか CM を見ているのか分からない気もします。リラックスするのにはいいかもしれませんが、ダラダラを子どもに見せ続けるものではないと強く思います。
思い切ってテレビの電源を切って、読書を子どもに勧めてみてはいかがでしょうか。小中学校時代に読書に親しんだ子どもは、未来志向になったり、積極性が増したりしています。世界が広がるから当たり前の結果です。また、多くの文の組み立てや展開に触れることで国語力も当然上がります。

現在、図書の係がお勧めの本を紹介しています。
心の栄養の読書。お子さんが本を開いたときは、たくさん褒めてあげて下さい。

学ぶ意味の大切さ

子どもの頃、そろそろ勉強しようかと思っていると、絶妙なタイミングで、「勉強せんでいいとね。」と親に聞かれ、「今、やろうと思っていたのに。あー、やる気がなくなった。」ということがありました。自我が目覚め始めた子にとって、勉強を何のためにするかがはっきりしていないのに勉強をしなければならないと決めつけられるのは苦しいものでもあります。
有名な石工の話です。
『山中を歩いていた旅人が、一人の石工に尋ねた。
「あなたは、何をしているのか？」
石工はぶっきらぼうに答えた。
「何をしているかって、みれば分かるだろう、石を切り出しているのだ。」
旅人は、重そうに石を引きずっていた二人目の石工にも同じ質問をした。
「あなたは、何をしているのか？」
石工は旅人を睨みながら言った。
「こうやって働かなくては金を稼げない。金がなくては生きていけないだろう。」
旅人は、石を軽々と担いでいた三人目の石工にも同じ質問をした。
「あなたは、何をしているのか？」
石工は額の汗を気持ちよさそうにぬぐいながら答えた。
「あの山の頂上に立派な教会を建てるのさ」』
強要するだけ、褒めるだけでは限界があります。学ぶ意味を考えさせるキャリア教育の必要性を先生方にもお願いしているところです。